

第 227 回 大阪市西区の弘世助太郎像と四天王寺

筆者：林 久治（記載：2023 年 4 月 2 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。今年の 7 月は、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、大阪在住の 3 人の孫達は夏休み前に感染したが軽症であった。そこで、私は 9 月初旬に大阪に行き、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 3 月 21 日から 31 日まで、大阪に滞在し孫達の世話をした。その間に、銅像探索も少しは出来た。本稿では、その中から大阪市の弘世像の探索記を記載する。本像は、[1\) のサイト/](#) に収録されていない。本稿では、私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）日本生命病院

私は、[3\) のサイト/1](#) より、日本生命病院（大阪市西区江之子島 2-1-54）に弘世像があるとの情報を得ていた。本像は、[1\) のサイト/](#) に収録されていないので、大阪滞在中の 3 月 28 日に本像を探索した。本像は大病院内にあるので、外部の人物が立入可能な受付などに設置されていることを期待して、本像を探索した次第である。

日本生命病院の周辺地図を次ページの図 1 上に示す。本図に示すように、日本生命病院は地下鉄阿波座駅の近くにある。しかし、阿波座駅は大阪メトロの中央線と千日前線の交差点に 2 駅あり、駅の構造は大変複雑である。私のように土地勘の無い人間は、駅から地上に出ると、方向感覚を失い、どの方向に行くべきかの判断に迷う。2 つの大通りの交差点の角（図 1 の①地点）に「大阪西郵便局」のビルがあるので、先ずはこの郵便局の前に行き、そこから「日本生命病院」に向うと分かり易い。（なお、本病院は、阿波座駅の 10 番出入口の目の前にある。）



図1. 上：日本生命病院の周辺地図、①：大阪西郵便局、③：阿波座駅3番出入口、④：阿波座駅4番出入口、⑥：阿波座駅6番出入口、⑦：阿波座駅7番出入口。

下：日本生命病院ビル（病院は手前のビルです。後ろにある高層ビルは「阿波座ライズタワーズフラッグ46」である）。本図は、[4\)のサイト/1](#)より借用。なお、日本生命病院ビルの紹介は、[4\)のサイト/1](#)が詳しい。その概要は次の通りである。

地上14階、地下1階、高さ67.99m、延べ32,802㎡、病床数350床の新病院を新設しました。設計は大林組、施工は大林組・大成建設JV。2017年12月に竣工し、2018年4月に開院しました。

ウィキペディアは「日本生命の概要」を次のように記載している。

①1889年に創業した、日本で3番目に古い生命保険会社である。1899年に保有契約高が業界首位となり、現在までこれを保持している。1889年7月に滋賀県彦根で第百三十三国立銀行（現・滋賀銀行）の頭取をしていた弘世助三郎が近畿の財界人、第四十二国立銀行（現・三菱UFJ銀行）頭取・田中市兵衛、川上左七郎、土居通夫、山口吉郎兵衛、岡橋治助、西田永助、竹田忠作、井上保次郎、熊谷辰太郎、難波二郎三郎、草間貞太郎、甲谷権兵衛、泉清助の各氏に呼びかけて、社長に11代目鴻池善右衛門を据え、片岡直温らを取締役にして資本金30万円の有限責任日本生命保険会社として、大阪市に発足させた。

②保険料表を当時、主流だったイギリスの保険会社のものを使わずに、日本人の死亡統計から作成したものを採用した。1891年に株式会社化し（社名は日本生命保険株式会社）、相互扶助の精神のもと1898年の第1回大決算において、日本で最初に契約者への利益配当を実施した。第二次世界大戦中に戦時統合として、富士生命保険・愛国生命保険と合併した。

③戦後は金融機関再建整備法に基づき、1947年に相互会社（社名は日本生命保険相互会社）として再出発した。高度経済成長期である1963年に東京都千代田区に日生劇場を完成させた。また、1975年には経営が困難となっていた琉球生命保険の全契約の包括移転を行い、事実上の救済合併を行った。1988年2月4日に生命保険会社の総資産部門の世界ランキングでアメリカ合衆国のプルデンシャルを抜いてトップに立つ。すでに新契約高・収入保険料・保有契約高の三部門で世界一になっていたため、これで四部門のすべてを制する「四冠王」に輝き、名実ともに世界第1位の生命保険会社となった。

ウィキペディアは、日本生命の創業者の一人である「弘世助三郎」の略伝を次のように記載している。

弘世助三郎（ひろせ・すけさぶろう、1843年2月1日 - 1913年11月17日）は日本の実業家、政治家。近江国彦根（現在の滋賀県彦根市）に素封家・川添家の次男として生まれ、おじに当たる商人弘世助市の養嗣子となる。第百三十三国立銀行が創立されると、その取締役支配人に挙げられ、のちに頭取に就任。1886年には滋賀県会議員に当選。当時滋賀県知事であった中井弘の紹介で同県警察部長片岡直温を事業の片腕とし、鴻池善右衛門や岡橋治助ら関西財界の重鎮の協力を取り付け、1889年有限責任日本生命会社を共に創設。

日本生命病院については、[5\) のサイト/1](#)で立花功院長が次のような挨拶をしている。

当院は日本生命済生会の理念である「済生利民」（生命や生活を救済し人々のお役に立つこと）に基づき、ニッセイ予防医学センター、ニッセイ訪問看護ステーションとともに、病気の予防から、治療・在宅まで一貫した総合的医療サービスを提供しています。日本生命という企業によって設立された病院といえますが、他の企業立の病院と異なり、当初から従業員・職員のためではなく、地域の皆様の健康を守ること、即ち地域・社会に対して貢献をすることを大目的として医療活動を行ってまいりました。1931年の開院時より「日生病院」の名称で地域の皆様に親しんでいただいておりますが、2018年に西区立売堀から同区江之子島に新築移転を完了、これを機に「日本生命病院」と改称いたしました。新病院では、手術支援ロボットダヴィンチなど最新医療機器の導入、女性病棟の新設など、最新・最適でより安心・安全な医療を受けていただける体制を整え、現在29診療科・9診療センター、病床数350を擁する大阪市西部地域の基幹病院となっています。

日本生命病院の沿革については、[6\) のサイト/1](#)に次のように書かれている。

1924年7月 財団法人「日本生命済生会」設立

1925年4月 健康相談所（無料診療所）開設

1931年6月 「日生病院」開院（大阪市西区新町：内科、外科、理学的診療科）

2015年10月 現在地に新病院着工

2017年12月 新病院竣工式

2018年4月 「日本生命病院」に改称し、現在地に移転

（3）日本生命病院の弘世助太郎像

日本生命病院（以後は、本院と書く）の1階構内図を図2に示す。私は、正面玄関から本院に入った。入口付近の受付に看護婦さんが一人居たが、外来者に声をかけてはいなかった。私は彼女の前を恐る恐る通過したが、咎められことはなかった。私は外来患者が立ち入ることが出来る通路をあちらこちら歩いてみたが、1階では銅像を発見することが出来なかった。そこで、私は階段で2階まで上がってみたが、やはり銅像はなかった。

（本文は、6ページに続く。）



図2. 日本生命病院の1階構内図、本図は、[7\) のサイト/1](#)より借用。

①：正面玄関、②：弘世助太郎像。



図3. 上：「あったかふれあいホール」前の胸像、下：弘世助太郎像。

私は「受付で銅像のありかを聞いてみようか」とも考えたが、この時勢に病院に入り込んだことに気が引けた。「諦めて帰ろうか」と思いつつ、1階の廊下を歩いていると、前方に銅像が見えた。地獄に仏の心境だ。その写真を図3上に示す。そこは通路になっていて人々が歩いていたが、守衛が見張っている様子は無かった。そこで、私は銅像の撮影を始めたが、それを咎める人はいなかった。

帰宅後に調査してみると、この通路は「コリドー」と呼ばれ、地域住民に開放されていた。[8\)のサイト/1](#)には、次のように書かれていた。

日本生命病院の建物1階には、幅8メートル、長さ42メートル、天井高5～5.5メートルのコリドー（回廊）を設置しております。病院建物西側にありますイングリッシュガーデンともども病院をご利用される方々、そして近隣にお住いになられている皆様方の憩いの場として、その落ち着いたひとときをお過ごしください。コリドー内の木製ベンチは、ニッセイ緑の財団が育樹・管理しておりますヒノキの間伐材を用いて作っております。またコリドーでは、大阪府が有する約7900点に及ぶ美術コレクションの中から、20世紀後半に活躍した画家・須田剋太氏の挿絵原画など、親しみやすい作品をお借りして展示しております。

上記のように、本院では「[地域との共生プログラム](#)」を色々と実行しているようで、私は「[流石に大日生傘下の病院だけあって、余裕がある!](#)」と感心した。



図4. 上：胸像のネームプレート、下左：本像台座正面の題字、下右：本像背面の制作者のサイン。

図4上には胸像のネームプレートを、図4下左には本像台座正面の題字を、図4下右には本像背面の制作者のサインを示す。これらより、本像制作者は有名な北村西望氏であることが分かった。座主の弘世助太郎氏は昭和11年（1936年）に急逝された。従って、氏の追悼事業の一環として、本像が制作されたようだ。

弘世助太郎氏の経歴や業績はウィキペディアなどに詳しく書かれている。要するに、「助太郎氏は日本生命の中興の祖」との名声が高い。なお、[9\)のサイト/1](#)によれば、助太郎氏は書家としても有名で、彼の筆名が「如水」である。以上の資料などにより、弘世像の概要は次の通りである。

弘世助太郎翁胸像

設置場所：大阪市西区江之子島 2-1-54 日本生命病院 1階コリドー南玄関内

制作者：北村西望

制作時期：1937年5月

設置経緯：弘世助太郎（ひろせ・すけたろう、1871年1月18日 - 1936年3月9日）は弘世助三郎（1843-1913）の嫡男として滋賀県彦根に生まれる。京都第三高等中学校卒業後、父助三郎（1889年大阪に日本生命会社を共に創設）の事業の後継者としての素地を作るため三菱合資銀行部、日本倉庫を経て山口銀行に入り1908年弘世助三郎の取締役退任に伴い日本生命取締役に就任した。助太郎は山口銀行の支配人・監査役をつとめ、その後関西信託や三和銀行の取締役に就任し、山口財閥とは極めて密接な関係にあった。1928年12月29日、日本生命社長に就任し、1936年に亡くなるまで、その任に当たった。日本生命は第2代社長片岡直温が1919年2月18日にその職を辞してから、社長不在時代が続いたが、弘世助太郎は専務として実質的に経営の舵取りを担っていた。この間、不況に加え関東大震災による罹災などがあり保険業界にとっては苦難の時代であったが、弘世の経営手腕で業界トップの地位を維持した。そうした難局を切り抜けたことに加え、地方の富裕層による代理店中心の営業チャンネルを、日本生命が直接雇用する営業社員に切り替えたことが、その後の日本生命の更なる発展の礎を築いたとされ、「中興の祖」と呼ばれるようになった。

日本生命病院の沿革は次の通りである。1924年7月、財団法人「日本生命済生会」設立。1925年4月、健康相談所（無料診療所）開設。1931年6月、「日生病院」開院（大阪市西区新町：内科、外科、理学的診療科）。2015年10月、現在地に新病院着工。2017年12月、新病院竣工式。2018年4月、「日本生命病院」に改称し、現在地に移転。

図5には、本院構内にある神社を示す。



図5. 本院構内の神社、左：日生白玉神社、右：日生稲荷大明神。

(4) 四天王寺

本稿には容量に少し余裕があるので、私が今回参詣した四天王寺を少し紹介する。周知のように、当寺は日本仏教の祖とされる「聖徳太子建立の寺」で、推古天皇元年（593年）に造立が開始されたという。正式名は、「荒陵山金光明四天王大護國寺」である。創建当時は、四天王寺の名前のおり、四天王（仏教の世界の東西南北を守護する仏）が本尊であったが、平安時代から救世観音（如意輪観音）を本尊としている。

私が当寺を以前参詣した時には、改修工事中で中央伽藍の見学は出来なかった。工事は2018年に完了したので（武漢肺炎の猖獗中は拝観中止になっていたが）、今春、孫達を連れて拝観した次第である。

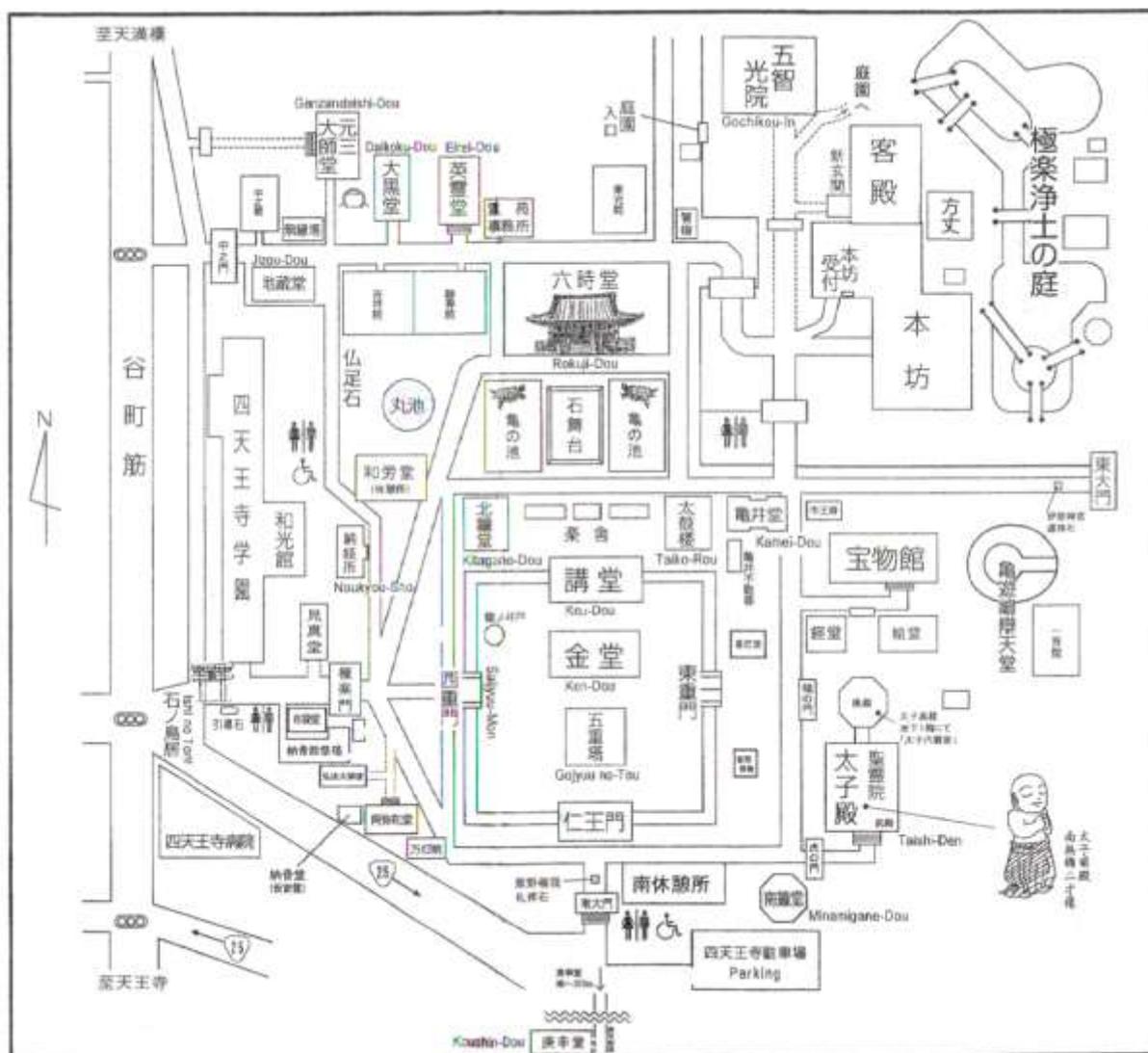


図6. 四天王寺の境内図、本図は、[10\) のサイト](#)より借用。

図6は当寺の境内図である。次ページの図7上は、西重門、五重塔、及び金堂である。我々が中央伽藍内で家族の記念写真を撮っていると、外人の老夫婦の奥さんがシャッターを押してくれた。その写真が図7下である。



図7. 上：四天王寺の中央伽藍、下：中央伽藍内の家族写真（祖父母と孫達）。

参考資料

- 1) のサイト : <https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト : <http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト : <https://ameblo.jp/cy29051163/entry-12487037990.html>
- 4) のサイト : <https://skyskysky.net/construction/201785.html>
- 5) のサイト : <https://www.nissay-hp.or.jp/nissay/message.html>
- 6) のサイト : <https://www.nissay-hp.or.jp/nissay/history.html>
- 7) のサイト : <https://www.nissay-hp.or.jp/nissay/kannai.html>
- 8) のサイト : <https://www.nissay-hp.or.jp/art/chiiki.html>
- 9) のサイト : https://www.tobunken.go.jp/materials/banduke_name/738656.html
- 10) のサイト : <https://xn----466a25kpraw8rjykhknfg9a.jinja-tera-gosyuin-meguri.com/%E5%9B%9B%E5%A4%A9%E7%8E%8B%E5%AF%BA/236/.html>